

## 環境・生命工学課程 C. Nさん

実務訓練機関 University of Windsor, Institute for Diagnostic Imaging Research

## 海外で実務訓練を行った理由

私は海外の研究に触れて新しいことを学びたい、また英語でのディスカッションや会話をする中でグローバルに活躍していける力を養いたいと思い、海外での実務訓練を希望しました。また本学の研究室で行った卒業研究とは異なる分野で知識を広げ、自分が取り扱える技術や研究力を身につけることで自分の将来に有利になるだろうという考えがあったことも理由の一つです。

## 実務訓練先機関の紹介・実習

私はカナダにあるウィンザー大学の IDIR という研究機関にお世話になりました。ここで皮膚がんのメラノーマを超音波顕微鏡で観察するというテーマで研究を進めていきましたが、初めに正常な皮膚(生きているヒトの皮膚と病院から提供していただいたスキンサンプル) を超音波顕微鏡でスキャンし、得られた音響インピーダンスや音速(物質固有の物性値) また皮膚の各層の厚さをそれぞれ比較していきました。測定条件を変更したり、様々なサンプルの処理方法を試したりすることで皮膚の各層の音響インピーダンスの平均値を算出することができました。

## 現地での生活

私は Canterbury college という学校寮に滞在しました。私のハウスでは7人が各自の部屋を持ち、キッチンやシャワーは共同使用というシェアハウスのような感覚でしたが、一緒に生活していたハウスメイトは皆お互い干渉せず、おのおの自由に過ごすタイプの人たちでしたのであまり一緒に時間を過ごすことはありませんでした。しかし、研究機関でお世話になった方々は優しい人ばかりでご飯に誘っていただき、観光も一緒に楽しめたので非常にいい思い出を作ることができました。また食生活においては、実務訓練時間中の昼食はほぼ毎日 Tim Hortons というファストフード店でバーガーなどを買って食べており、夕食は自炊していました。スーパーに行く際はハウスの近くで毎週火曜日に無料のシャトルバスが出ていたのでそれを利用して食材を買っていました。滞在生活においては、ハウス内でごみ出しの当番を決めごみ出しを行い、キッチン、洗濯機やシャワーなどみんなが使うので気遣いの精神を身につけることができました。週末はウィンザー大学の学生証を提示すれば無料で観戦できるアイスホッケーの試合を見に行ったり、市内のホールでオーケストラを鑑賞したりしました。また研究機関でお世話になった大学院生の方にトロント観光に連れて行っていただいたり、ウィンザー大学の留学生団体が企画したケベック・モントリオール旅行に参加したりとカナダの美しい景色やおもしろい施設を存分に楽しむことができました。

## 海外実務訓練を考えている学生へ

最初の一週間は耳が英語に慣れておらず、苦しい時を過ごしました。実際に英語の必要性は痛感しましたし、英語を話せるに越したことはありませんが、最終的には自分が話していく積極性の有無に尽きると思います。ある程度の英語は海外に行く前に勉強しておいた方がいいですが、実際のリスニングスピーキングは分からないときは聞き直したり、ゆっくりでもいいので自分の考えを伝えたりすることで実務訓練機関の指導員の方も可愛がってくれます。英語を話すのが苦手だからといって気落ちする必要はありません。また研究や仕事が順調に進まず落ち込んだり、現地での生活にストレスを感じたりすることもあるかもしれませんが、ネガティブな気持ちにとらわれず、うまくいかない研究、仕事や生活も楽しもうとする姿勢を大切にしてください。逃げ道を探すのではなく、ものの見方を変えるだけでも気分がガラッと変わります。楽しくないこともいかに楽しめるか? ということを考えるのも辛い時間の乗り越え方です。そして海外で生活しているとどうしても現地食に飽き、日本食が恋しくなる時があります。私も『サトウのごはん』やインスタントみそ汁を持っていきました。持って行ける好みの日本食は忘れずに!

